



キャンパス／神奈川県逗子市 学生数／3,380人(2025年4月1日現在)
 基本理念／不確実で変化の激しい知能情報社会を生き抜く実践力を持った人材を育成する
 学部／知能情報社会
 経営／学校法人日本財団ワンゴ学園

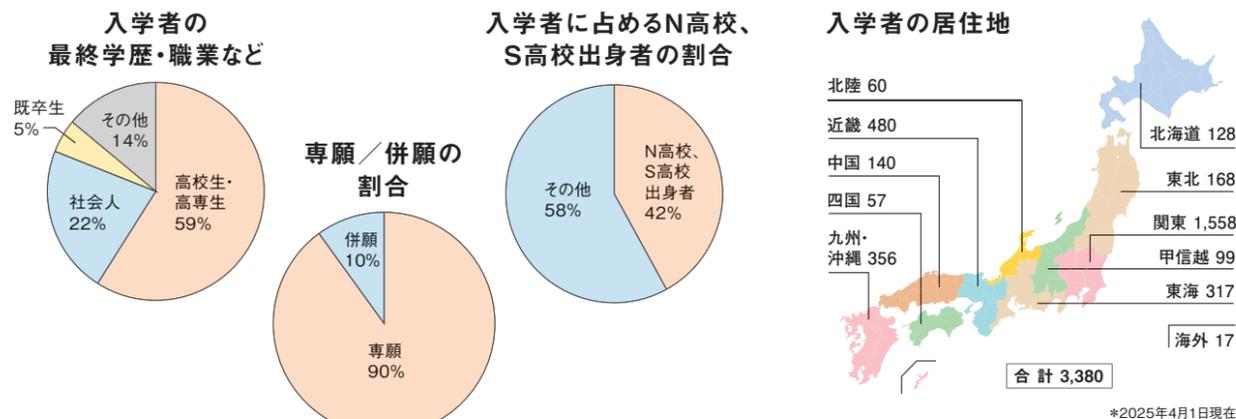
【大学の特色】

学部:知能情報社会学部
取得できる学位:学士(学術)
授業形式:オンライン
 ※卒業に必要な単位の取得が、全てオンラインで可能。
科目数:全279科目
 (ライブ授業123科目、オンデマンド156科目)
授業料:年間38万円
卒業所要単位:124単位
 「卒業プロジェクト」(必須)のみ4単位(ほかは全て2単位)
入試科目:志望理由・小論文(Web入力)

6つの研究分野

デジタル産業	・コンテンツ産業論 ・マンガの企画立案とプロデュース論 ・ゲーム制作論基礎 など	経済・マーケット	・企業経営 ・デジタル・マーケティング ・交渉・合意形成概論 ・スタートアップ実践 など
文化・思想	・心理学 ・世界が変わる編集力 ・Webコミック演習 ・近・現代アート概論 など	社会・ネットワーク	・AI社会の歩き方 ・地域研究 ・意思決定の能力開発 ・音楽と社会 など
情報	・データサイエンス概論 ・統計学入門 ・ディープラーニング ・Webアプリケーション開発 など	数理	・現代社会とサイエンス ・数学の方法 ・線形代数 ・宇宙際タイヒミュラー理論 など

【2025年度入学者データ】



注目

オンライン大学ならではの教育を支えるオリジナル学習システム

ZEN大学が設置しているのは「知能情報社会学部」の1学部のみ。研究分野は、デジタル産業、文化・思想、情報、経済・マーケット、社会・ネットワーク、数理の6つだ。文理横断の279科目が設けられ、学生は自分の興味・関心、希望進路に基づいて科目を選択する。279科目のうち、約6割がオンデマンド授業で、残りはリアルタイムの授業や少人数での演習ゼミなどのライブ授業だ。同大学は開学にあたってオリジナルの学習システム「ZEN Study」を開発した。学生はこのシステムを使って、オンデマンド授業やライブ授業を視聴し、LMSで学修の進捗を管理する。ライブ授業では不明点や感想を講師に直接伝えたり、学生同士でコミュニケーションを取ったりすることも可能だ。クラス・コーチ等の専任スタッフも、このシステムを通じて学生を支援する。卒業にあたっては卒業プロジェクトを必須としている。学生は、3年間で得た知識とデジタル技術を駆使し、自ら設定した課題解決に取り組む。「本学のカリキュラム設計の目的は、学生が社会で活躍できる力を付けること。社会で役立つ教育の提供に力を入れていきたい」(若山学長)。

オリジナル学習システム「ZEN Study」

学生同士の学びの輪を感じられる「コメント」機能で、同じライブ映像授業を受けている学生の気づきを知ることができる。

クラス・コーチが学生の学修の進捗を確認して、アドバイスの参考にする事が可能。

手厚い学生サポート体制により 生涯学び続ける能力を養成する



ZEN大学

2025年に入学定員3,500人の「オンライン大学」として開学したZEN大学。オンラインならではの特色を、教育や研究にどう生かすのか。学長に話を聞く。



学長 **若山 正人**

わかやまさと ●1985年広島大学大学院博士課程修了。鳥取大学助教授を経て九州大学教授、同大学院数理学研究院長・学部長、同大学長、同大学マクス・フォア・インダストリ研究所所長、同大学理事・副学長、東京理科大学副学長・教授などを経て、2025年より現職。理学博士。

学びたい人が諦めずに学べるオンライン大学

本学は、N高校、S高校での教育実績を持つ株式会社ワンゴと日本財団が開学したオンライン大学です。現在、N高校、S高校の生徒は3万人を超え、全高生生の1%を占めるほどであり、その多くは自分で学び方をデザインできるアクティブラーナーです。こうした生徒や卒業生、保護者から、卒業後の進学先としてオンライン大学を望む声が多く聞かれ、それが本学の開学につながりました。加えて、「学びたい人が地理的、経済的な問題で大学進学を諦めてほしくない」という思いもありました。場所の制約がなく学べ、学費も安いオンライン大学という選択肢を設けることは、日本の大学進学率向上という点でも大きな意義があります。

私は大学で学ぶ目的の一つは「生涯、学び続けられる能力を身に付けること」だと考えています。しかし、入学当初から大学での全ての学びを自分一人で設計・実践するのは難しいため、一定のサポートが必要です。本学の入学定員は3500人ですが、これは、人数がさらに千人余り増えても十分なサポートを提供できることを根拠に算出した定員数です。学生支援のために3種類の専任スタッフを配置しています。担任の役割を担う「クラス・コーチ」は、講義の視聴ペースが滞った際に声を掛け、オンラインで相談に乗ります。「アカデミック・アドバイザー」は学生の興味や希望進路に合った科目選択や研究面での助言をし、「キャリア・アドバイザー」は個別相談などを通じて、キャリア形成を支援します。学生がサポートを受けられる機会は、他の大学より多いかもしれません。3年後の完成年度までに300人の専任スタッフと110人のTAを採用し、サポート体制の充実を図る予定です。

活用、また改善のベースにできるので、研究時間の確保につながります。大学教育は研究があつてこそ、研究時間の拡充は、教育面で必ずプラスになるでしょう。

他大学と連携を図り協力し合って人材を育成

IT企業が設立母体の1つですが、募集広報はネットだけでなく、対面の機会を大切にしています。高校訪問や地域開催の進路相談会などに積極的に出向き、大学の理念や学びの内容を丁寧に説明。初年度は無事に多くの入学者を受け入れ、その約6割が現役の高校3年生の進学者です。

18歳人口が減少する中、多くの大学が定員割れに苦しんでいます。本学は既存の大学から学生を奪おうと考えるではありません。むしろ、本学の取り組みの中で、役立つものがあれば取り入れてもらいたい。特定の専門分野の教員を集めることを課題とする地方の大学には、本学のオンデマンド授業を使うという方法もあります。社会も大学も時代に合わせた変化が求められ、さまざまな面で連携が必要な時代です。互いに協力しながら、社会で活躍できる人材育成に取り組んでいきますか。

取材・文／本間学 撮影／岸隆子